

大会宣言

全国福祉保育労働組合第 19 回定期全国大会は、多くの福祉労働者とともに「闘ってこそ前進する」という確信に満ちた報告が、感動的にされました。

一人の組合員の勇気ある行動から、マイナス人勤を理由とした一方的な削減に対し、労基署を突き動かし、全職員の不利益遡及を撤回させたたたかい。労基署の指針を根拠にサービス残業分の超勤手当を支払わせた分会。「18年ぶりの1号俸完全昇給」を粘り強い職場交渉によって勝ち取った仲間。

「このままでは働き続けられない」と4週6休と時給アップを実現した非常勤・パートの仲間。職場の過半数を組織し、「拡大こそ要求実現への道」と力づくで発言する仲間など、労働組合らしく毅然としたたたかいが全国津々浦々で広がっていることが、実感をもって語られ、この秋からの賃下げ阻止のたたかいへの決意を固めあうものとなりました。

不当解雇に屈せず職場の過半数の組織化を成功させ職場復帰をかちとった北海道の仲間や、「私は必ず勝利する、なぜなら勝つまでたたかい続けるから」と確信をもって発言する関西の仲間。「職場の中で本当のことが言えない」いじめや排除がまかりとおる職場を許さず、働く者の尊厳を守るため、全国の仲間と手をつなぎ職場の民主化をめざし奮闘する東海の仲間。

厳しいとりくみの報告も、確信に満ちた晴れやかな表情に大会参加者は逆に励まされました。

多大な利用者負担が懸念される中、支援費の抜本的改善を求めて粘り強く自治体交渉を進める仲間達。

経営者や保護者との共同で、障害児保育補助事業の継続や自治体独自の補助金増額をかちとったり、介護報酬の初めての改定にあたり国や地方にむけて制度の改善と利用者負担の軽減にむけて奮闘した高齢職場の仲間。

府立施設の存続を求める運動の中で、民間法人への払い下げに際し大規模修繕や土地の無償譲渡をさせるなど自治体闘争の貴重な成果も報告されました。

私たちはこの3年間、高齢者・障害者・子ども達の権利と福祉労働者の生活と権利を守るために「福祉ウェブ運動」を進め、職場の実態告発と「5つの共同」を推進してきました。

埼玉では「保育者の地位向上をすすめる会」のとりくみがはじまり、愛知では労使・公民多くの福祉関係者との「県民集会」が5回目を迎えるなど、共同の輪が全国にひろがっています。

“平和こそ最大の福祉”を合言葉に「イラク戦争ノー」の意見広告や平和パネル展を成功させた地本・支部の運動。共同の大きなうねりは全国に広がり、組織を確実に大きくしています。

私たちは、来年の秋をめどに1万人規模を目標とした「社会福祉危機突破！全国福祉関係者共同集会（仮称）」を開催する運動方針を決定しました。

このとりくみの成功は、職場・地域での共同を大きく広げ、要求を前進させ、政府の社会福祉破壊攻撃に大きなくさびを打ち込むことにつながります。

私たちは、すべての組合員の知恵と力を結集し、中央・地方・地域・職場で「5つの共同」を本格的に追求し壮大な運動を展開します。そして「福祉保育労のたたかう姿」を未組織のなかまや経営者、地域住民にアピールし、大きな組織建設の飛躍をつくり出し、2万人福祉保育労を早期に実現します。

以上宣言します。

2003年9月21日

全国福祉保育労働組合第19回定期全国大会